

福井しあわせ元気国体が開催されました



第 73 回国民体育大会(福井しあわせ元気国体)が 9 月 29 日から 10 月 9 日までの 11 日間と、13 日から 15 日までの 3 日間の全国障害者スポーツ大会(障スポ)との融合を目指して開催されることになりました。

全国から 2 万 5333 人もの役員、選手団が参加され、国内最大のスポーツの祭典が、半世紀ぶりに福井県で開催され、今年の国体が平成最後の大会となります。開会式の式典に私共静岡福井県人会にも招待があり、代表で 3 名が参列しました。その当日は、折からの台風 24 号が本県にも接近しつつあり、朝から降りしきる雨で肌寒い中、予定通り午前 11 時から歓迎イベントが開始されました。雨降るなかでも県民 2,000 人以上が出演して踊りやダンスが次々と繰り広げられ、その人達がずぶ濡れになりながらも笑顔を絶やさないで一所懸命に。雨がっぱを着てスタンドに座る私達も、大勢の観客と一緒に大きな拍手を送り続けている内に、暫くしてひときわ大きな拍手が起こったのが、天皇、皇后両陛下が臨席された時であった。来年 4 月のご退位を控え、今年が最後の出席となる福井国体の開会式では、雨天のなかでもたえず笑顔で、暖かい拍手を送られている姿が。やがて選手団の入場アナウンスで、南の沖縄県から各都道府県別に総勢 3,722 人が入場し、最後の 47 番目に入場した福井県の選手団には一段と大きな拍手が送られた。西川知事による開会宣言によって大会がスタ



ートし、翌日の30日より11日間、県内各地の競技場を舞台として、全国から集結したトップアスリート達が、熱い戦いを繰り広げることになる。競技種目の中で、馬術競技が御殿場の競技場で10月1日から5日間開催されることになっていたため、4日に観戦に行くことにした。この日も生憎の雨模様のなかでも既に競技が始まっていて、観戦している内にルールが何となく判ってきた。騎手の技量と馬の調教レベルとを競うもので、正に人馬一体となって正確に、きれいに、より速くを競う競技と感じると同時に中学生の騎手の参加には驚かされた。

10月9日には予定通り国体の全競技が終了し、総合成績が発表されその結果、何と福井県が見事に天皇杯と皇后杯(男女と総合得点)を獲得した。総合優勝の栄誉に輝いた。一方の障害者スポーツ大会も15日に全競技が終了し閉会となりました。

— 参加者代表 武長 記 —

大変に盛会だったバーベキュー会・・・のレポート

今年の夏は異常とも思える猛暑日の連続で、連日熱中症の注意が呼びかけられて来たが9月に入って漸く秋の気配を感じるようになったその初日の1日が、恒例となって来たバーベキュー会を行うことになっていた。これは人気のある行事で今年も我が会員だけでなく、新潟、石川、鹿児島の人達にも呼びかけ昨年よりも多くの参加者となった。会場は、昨年と同じ「もうもうBBQ」で、緑に囲まれた涼しい場所である。昼時の直前に会場に着いたが、その時には既に準備が出来ており、直ぐに始められる状態になっていた。例年のことだが小林事務局長の会社関係の人達が早めに来て、食材の支度から飲み物などの一切を準備してくれたので本当に助かります。早速始めることになり、めいめいが席に着き、盛りだくさんの料理を味わい、飲みながらの談笑で誠に賑やかだ。初めて参加された人や、1年ぶりに会う人もいたりして話がはずむ様子が見られた。お子さんを連れて家族での参加者もあった。

参加者のなかで、手品を披露してくれた人がいたが、なかなかの腕前で拍手かっさいだった。今年も和やかで楽しい愉快的なバーベキュー会となった。この日、遠くから参加された方、そして何よりも早くから来て準備して下さった人達に深く感謝を申し上げますと共に、来年の再会を楽しみにしております。

合掌



国会議事堂・迎賓館赤坂離宮バス旅行

静岡県内各県人会協議会では、今年度の主要な行事として、貸切バスで東京へ出向き国会と迎賓館を見学することを計画し、早速日程調整など周到な準備を行うなかで、10月23日(火)に実施することに決定した。各県人会に行事案内を伝え、多くの人に参加を呼びかけたが、それ程集まらない為にやむを得ず、知人や友人を誘って頂いた結果最終的に19名の参加で実施することになった。「その日の早朝、静岡駅前をバスは定刻通り出発



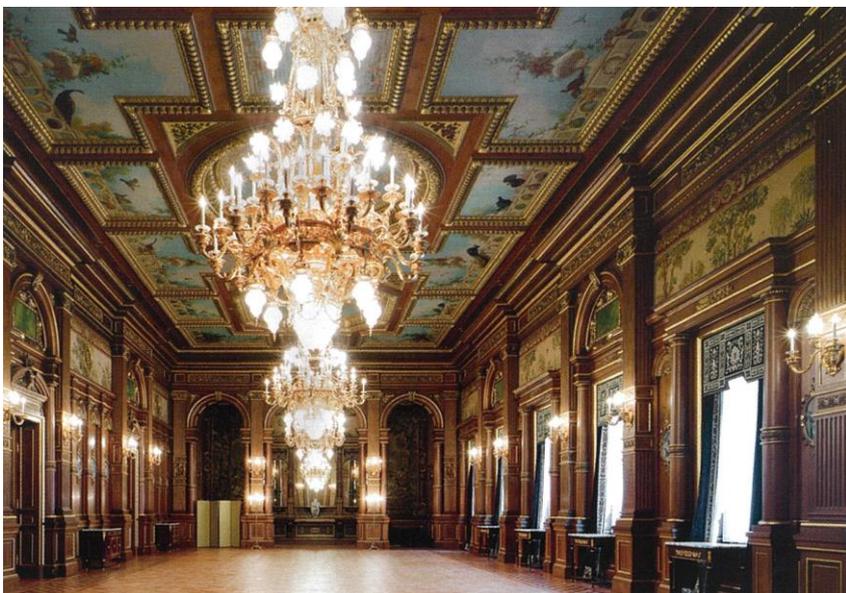
して一路東京へと。心配していた交通渋滞も都内に近づくにつれて少しあったが、それ程でもなくやや遅れて国会に着いた。

現在の国会の建物は、大正9年に建設が始まり、当時の一流の技術を結集し17年の歳月をかけて昭和11年に完成した美しい建築物である。「国会の入口では係官の指示通りに手荷物検査を受けて建物の中へと。敷かれた赤ジュータンを踏みしめながら先ず衆議院議場へと向かう。見学出来る場所は議場内の上部にある傍聴席の更にある見学通路から見下ろすことになる。議場はテレビで良く見ている扇状の形でなる程と。この議場で明日から臨時国会が開かれ、あの席から総理や各大臣が演説をするのだあ・・・と一応納得した。明日の開会式に天皇陛下をお迎えする為の準備作業中で、中央玄関からの通路には特別のジューダン(敷物)を敷く作業員の姿が見られた。式典が終われば取り除かれると言う事だ。

「このあと昼食をとる為に参議院議員会館の建物へと移動して、あらかじめ用意して頂いた部屋に着き、ここで弁当での昼食となり、その食事が終わった丁度の頃に参議院議員

の森ゆうこ先生が部屋に入ってきましたので、先ず先生にご挨拶をしたあと、先生からの近況報告を聞かせて頂いたり又歓談や質問なども・・・

時間に制約もあり、私共が退室することになりますが、森先生には国家国民の為に尚一層のご活躍を期待したいものです。有難うございました。感謝です。



次の見学目的地の迎賓館へと向かう。15分程度で到着した。現在ある迎賓館この場所は、かつて紀州徳川家の江戸中屋敷があったところですが明治を迎え、皇室に献上されたもので、この土地の一角に10年の歳月をかけ明治42年に東宮御所(大正天皇の居所として建設され、日本に於ける唯一の西洋風宮殿建築が現在の国宝、迎賓館、赤坂離宮の本館であります。こちらの受付でも手荷物検査などの手続きを終えて館内へと向かう。指示された順路に従い、通路をゆっくりと進むと右や左の色、天井までも白色にまとめられ明るい、ドアの取手までも金箔に・・・やがて広いホールへたどり着く。海外からの賓客を最初にお迎えするのが玄関ホールでそこから中央階段を通り2階の大ホールへと進むことになり、その内部は何本もの大円柱に支えられており、白を基調として到るところに金箔が施されており、豪華なシャンデリアや、有名な日本画家、フランス画家などによる油彩画、金色に輝く花や鳥など沢山のレリーフなど、また天井に描かれた油彩画には圧倒される。どの間も輝いていて全く壮観である。

大ホールからそれぞれ特徴のある間が続いており、「朝日の間」「彩鸞の間」「花鳥の間」「羽衣の間」などで、いずれも絢爛豪華に装飾されている。なかでも特に印象深いのが「羽衣の間」で、この部屋の広さが最大で、かつては舞踏室と呼ばれており演奏会が行われることがあるようで、この2階にはオーケストラボックスが備えられている・・・由。この部屋の天井画に描かれているのが、静岡県清水三保の松原に由来する天女の羽衣、を画題にしてフランスの画家に依頼して完成したもの。そこで、この場にいた案内員に訪ねたのは天女の姿が何処にも描かれていないのは何故か?するとその答えは、この舞踏会に集う淑女が天女である・・・と。この趣向にウ・・・ンと、半分納得するが、帰り際に案内員がそっと教えてくれたのが、天井のあの1ヶ所に羽衣らしきものが描かれていますよ・・・と指さしを。少し得した気分・・・に。

やがて館外へと進み、主庭を散策することになり、その庭の中央には大きな噴水が勢いよく水を噴き出しており、この噴水もやはり国宝に指定されている。彫刻で石組みされ、水盤も青銅製でその上にはシャチ、その下に魚やライオンなどが噴水を守っているようだ。この噴水と背景にある本館とが見事に調和されている。「最後は、正門から出ることになり、この正門のデザインは、フランスのベルサイユ宮殿の門しょうを模倣したもので壮観な印象でした。中央の上部には金色に輝く菊の紋章が掲げられています。

以上で今回予定の2ヶ所を見学して、帰路につくことになり、バスの車中ではアコーディオンの伴奏で童謡などを合唱したりで楽しい一日に、又良い社会見学でもありました。

熱夏のなかでの三島大祭りを見物して・・・そして納涼会を

例年8月15～17日迄の間、三島市民挙げての真夏の大祭りが今年も開催された。この祭りを見ることと、その後の納涼会を会の行事として企画し、我が会の会員だけでなく、他県人会の人達にも参加を呼びかけ、その結果11名が参加された。17日の午後1時に三島駅に集まり三島大社へと向かう。その途中に地下から湧き出るきれいな水が川へと流れるステキな公園を案内して大社へと向



かうと、やがてシャガリの音が聞こえ始め、その音がだんだんと大きくなって響き渡り、祭りの気分させてくれる。その音は、きれいに飾り付けた山車に乗った子供達が奏で、鉢巻き姿で張り切っている。やがけ大社の境内へ入り参拝した後、流鏝馬の行事を是非見たい・・・と。

境内には大勢の人達であふれ、良い場所探しに右往左往する内に、やがて開始の合図。馬に跨った射手が、合図と同時に馬を疾送させながら、3つの的に向けて矢を射かけ見事的中すれば大歓声があがる。間近で見ていると疾送してくる馬の迫力はスゴイ。1時間近く見ていたので、少将疲れ気味と、喉が渴いたこともあって次の納涼会を始めようということで、食事処の会場へと向かうことにした。会場に入り先ずは皆んなで乾杯・・・と。この一杯は何とも言えずホッと一息ついてやれやれと。あとはお定まりのコースで、食べたり、飲んだり、おしゃべりで賑やかなもので実に楽しいし、最高の気分で過ごすうちにお開きとなった。

暑い時期のなかでの行事でしたが、楽しい愉快な一日でした。参加者に感謝です。

福井が生んだ偉大な人

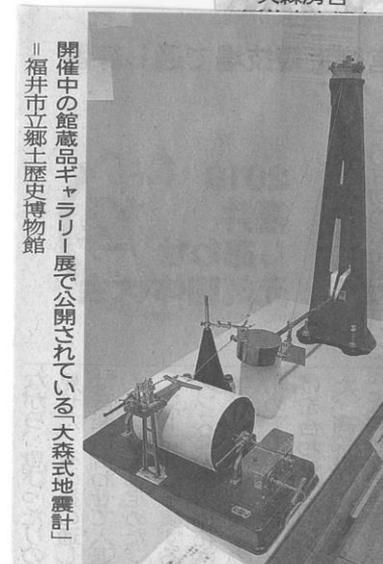
地震の生き神さま・・・大森 房吉について

地震学の世界的権威とまで称された大森房吉は、福井市出身で明治、大正期を代表する地震学者で、まさに「地震学をつくった男」であった。日本にみならず、世界からたたえられ、ノーベル賞候補にもなった大森を、今知る人がほとんどいない。大森房吉(1868～1923年)は、福井市出身の地震学者で、現在も使われる震源地を測定する公式の発見や、地震帯を見だし地震予知に一步を踏み出すなど、地震学の世界的権威の人と称された。その大森の名を、最初に知らしめたのが1898年の「大森式地震計」の発明とされる。

ぜんまい仕掛けなどで動くドラムに媒(すす)のついた紙を巻い



大森房吉



て記録する画期的な方法により、従来の地震計の欠点を解消、地震発生から終息まで連続記録出来る様になった。これにより震源地特定の為の高精度で信頼性の高いデータを入手でき、世界の地震学研究を格段に進歩させた。1923年に発生した関東大震災、大森はその直前にこれまでの地震予知の研究結果をまとめ論文として発表した。それには近い時期に相模湾沖あたりを震源地とする大きな地震が発生する恐れがある・・・とのことを予知するものでしかも震源地を示唆する地図までも含まれていた内容の論文が発見された。次にどこで起こるかを誰よりも正確に予知していたのです。大森は、近代地震学が地震大国で誕生した理由と、その礎をほぼ一人で築く上げた。この業績はまさに称賛すべき偉業であり、故郷が誇るべき偉大な人であります。

— 福井新聞の記事を抜粋して —

今後の行事予定について

1、12月2日(日)に忘年会が開催されます。

静岡県内各県人会協議会が主催して開催されますので、我が会からも多くの会員が参加されますように、宜しくお願い致します。

- ◆ 場所は「馳走百年 覚弥別墅(じそうやくねん かくやべつしょ)」
静岡県葵区七間町1-15 電話054-255-3388
(伊勢丹から約150m)
- ◆ 時間は、午後5時から開始
- ◆ 会費は、¥6,000円(飲み、食べ放題で、カラオケ可です)

2、来年の新年会の開催について。

以下の通りに開催致しますので、会員の皆さん方、大勢の参加をお願い致します。

- ◆ 日時：平成31年1月20日(日) 正午12時より
- ◆ 場所：中島屋グランドホテル
- ◆ 会費：¥6,000円
- ◆ 来賓：東京事務所長様など2名が出席の予定。

平成30年度年会費納入者(前回の会報以降納入いただいた会員)

会費納入者(敬称は省略します。)

上田憲 山路喜春 林敬

※未だ未納の方は、至急納入して頂きますように宜しくお願い致します。